

会 議 記 録

会議名称	平成 25 年度第 1 回 杉並区立図書館協議会
日 時	平成 25 年 5 月 25 日 (土) 午後 2 時 02 分 ~ 午後 4 時 17 分
場 所	中央図書館 地下 1 階 視聴覚ホール
出席者	委員 沼田、赤荻、原、竹田、原田、石橋、高野、川田、齋木、澁川 区側 中央図書館長、中央図書館次長、管理係長、企画運営係長、 情報化担当係長、資料相談係長、事業係長、高円寺図書館長、 永福図書館長、宮前図書館長、成田図書館長、阿佐谷図書館長、 高井戸図書館長、方南図書館長、南荻窪図書館長、下井草図書館長、 今川図書館長
配付資料	資料 1 第 16 期杉並区立図書館協議会委員名簿 資料 2 平成 25 年度杉並区立図書館職員体制 資料 3 杉並区立中央図書館組織図 資料 4-1 平成 24 年度事業実施状況報告 (中央図書館) 資料 4-2 平成 24 年度事業実施状況報告 (中央図書館) 資料 4-3 平成 24 年度事業実施状況報告 (各地域図書館) 資料 5 平成 24 年度子ども読書活動推進 (活動報告) 資料 6 利用者満足度調査の結果 資料 7 平成 25 年度予算概要 資料 8 平成 25 年度中央図書館事業計画
会議次第	1 開会 2 第 16 期杉並区立図書館協議会委員委嘱状交付 3 中央図書館長あいさつ 4 委員紹介 (自己紹介) 5 正副会長の互選 6 議題 【報告事項】 (1) 平成 25 年度杉並区立図書館職員体制について (2) 杉並区立中央図書館組織図について (3) 平成 24 年度事業報告について (4) 子ども読書活動推進計画について (5) 利用者満足度調査の結果について (6) 平成 25 年度図書館予算の概要について (7) 平成 25 年度事業計画について (8) その他 7 閉会

会 議 記 録

第16期杉並区立図書館協議会の開催にあたって

中央図書館次長 定刻となりましたので、平成25年度、第16期の第1回杉並区立図書館協議会を開催いたします。本日会の冒頭の進行は、私、中央図書館次長の大林が務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。まず初めに、杉並区立中央図書館長から委員の皆様へ委員の委嘱をさせていただきます。その後、館長よりご挨拶をさせていただきます。

中央図書館長 中央図書館長の武笠と申します。よろしくお願いいたします。皆様にはご多忙な中、第16期協議会委員を引き受けてくださいます。誠にありがとうございます。委嘱状は、事前に席上に配付させていただきました。よろしくお願いいたしますと思います。

今日は、委員改選後の最初の図書館協議会になります、今年度の図書館の課題につきまして、ご挨拶の中で触れさせていただきたいと思いますが、昨年度は、図書館のこれからの大きな方向性を決める杉並区の図書館サービス基本方針というのを、委員さんのご尽力によりまして、まとめさせていただきました。この計画を、今年度は具体的な事業として軌道に乗せるという大事な年になっております。そのほかにも、子ども読書活動推進計画、これも改定されましたので、この事業につきましても、しっかりと軌道に乗せていくと。そういう、軌道に乗せるという非常に大事な年であるというふうに考えております。

また、そのほかにも、来年度、図書館の経営についての評価をすることになっております。この評価委員につきましては、図書館協議会の委員の方の中から選出ということになっておりますので、どうかよろしくお願いいたしますと思います。

今年度事業の具体的な計画につきましては、後ほど報告事項で説明いたしますが、ここで、杉並区の全体の中で大きな課題になっていることを一つ申し上げたいと思います。それは杉並区の区立施設の整備再編計画というものがございます。杉並区制を敷いてからいろんな施設を造ってきましたけれども、約460ある杉並区の施設の半分が30年を経過している。また、その4分の1が40年

以上であると。非常に老朽化が進んできているということがございます。これに係る費用を算定いたしますと、今後30年間で2,800億円という巨額の費用が必要になり、毎年90億円から100億円の予算が必要になるということがございます。こういった財政的な背景と、それから今後の人口構成の推移、それから区民ニーズの変化、こういったものを捉えて、今後の改築、改修に当たっては、施設をどのような形で改築等をしていくのかということが非常に大事になってくるということがございます。

施設については、区の施設のほぼ全般に及びますけれども、図書館もその施設の一つに入っているということもございます。9月ごろ、中間のまとめという形で公表して、区民の皆様の意見をお聞きすると。その後、そういった意見を反映して、来年の3月に正式な計画を立てるという予定になっております。図書館のほうでも、したがいまして、今その検討を始めたところでございます。委員の皆様には、なるべく情報につままして事前にお渡しできればというふうには考えておりますけれども、できるだけそういった姿勢で臨んでいきますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

議事はこの後、会長、副会長の選出等がございますので、どうかご協力をお願ひしたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

資料の確認及び第16期協議会委員の自己紹介

中央図書館次長 それでは、続きまして委員の皆様のご紹介に入らせていただきますが、その前に、全体の資料の確認をさせていただきます。

既に郵送等でお送りしてございますが、本日の資料といたしましては全部で8件ございます。まず、資料1が協議会の委員の名簿でございます。資料2が図書館の職員体制。資料3が図書館の組織図。資料4-1につきましては、平成24年度事業実施報告（中央図書館）ということで、経営評価の中で指摘された項目をもとにつくったものでございます。続きまして、資料4-2といたしまして、平成24年度事業実施状況報告（中央図書館）、そして、そのあとに、資料4-3といたしまして、同じく平成24年度事業実施状況報告、それぞれの地域館での分でございます。次に、資料5、これが子ども読書活動推進の平成24年度の活動報告でございます。次に、資料6といたしまして、利用者満足度調査の結果でございます。資料7が平成25年度予算概要でございますが、これ、お送りし

たものにちょっと間違いがございまして、本日、席の上に正しいものを置いてございますので、今日、席に置かれているほうが正しいということでお取り扱いいただきたいと存じます。最後に、資料8として、平成25年度中央図書館事業計画ほか、地域図書館の事業計画を取りまとめてございます。

そのほか、今日は席上に「杉並区の指定登録文化財」というものをお配りしてございます。これは、生涯学習推進課のほうで作ったばかりのもので、図書館協議会の委員の皆様にお配りいただきたいということで、今日席上で配付させていただきました。また、これは中島委員からですけれども、「未来をひらく学校図書館～学校司書の役割と可能性～」、これも席上で配付させていただきました。以上でございます。

では、委員の紹介に入らせていただきます。まず、名簿の上から順に自己紹介をお願いしたいと思いますが、よろしく願います。

【自己紹介省略】

協議会会長並びに副会長の選出

中央図書館次長 続きまして、図書館協議会の規則に則りまして、会長及び副会長の互選を行います。まずは会長についてですが、自薦、他薦を問いませんが、どなたかいらっしゃいますでしょうか。また、ご推薦でも構いませんので。いかがでしょうか。

委員 澁川先生にお願いできればと思いますが。

中央図書館次長 ただいま委員から澁川委員を会長にという意見がございました。いかがでございましょうかね。特に、ほかにいらっしゃいませんか。

では、ご同意いただける方は拍手で。

(拍手)

中央図書館次長 それでは、澁川委員、会長を、また今期もよろしく願います。

委員 よろしく願います。

中央図書館次長 また、副会長につきましても互選ということになりますが…。

委員 川田委員にお願いできればと思いますが。

中央図書館次長 副会長には川田委員ということでご意見がございましたが、もしこれでよろしければ、また拍手でご同意の意を表していただければと……

(拍手)

中央図書館次長 どうもありがとうございます。

それでは、会長には澁川委員、そして副会長には川田委員ということで、第 16 期の会長、副会長を決定いたしました。お二人にご挨拶をいただきたいと存じます。

会長 ご推挙いただきましたので、謹んでこの職をお受けいたしたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。4 年間会長を務めさせていただいておりますが、マンネリにならないように、常に新鮮な会を進めたいと思っておりますので、皆様のご協力をお願いいたします。

副会長 私、横浜市に住んでおりまして、横浜の図書館の利用者という立場から杉並の図書館サービスの様子を拝見しておりまして、区民の皆様をうらやましいなと思っております。杉並区の図書館サービスは、東京都全体でもそうですが、日本の中の模範となるようなレベルかと思えます。杉並はよくやっていらっしゃるだと思っております。さらにまた一層充実できるような方向で、会長さんを補佐して仕事をしてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

報告事項

《報告事項 1：平成 25 年度杉並区立図書館職員体制について》及び《報告事項 2：杉並区立中央図書館組織図について》

詳細省略

《報告事項 3：平成 24 年度事業報告について》

中央図書館次長 続きまして平成 24 年度事業報告をいたします。関連資料は資料が 4-1、4-2、4-3 です。資料 4-1 は、平成 22 年度の経営評価の事業項目に沿い、平成 24 年度の取り組み状況をまとめたものです。

総括報告

9 つの計画項目が掲げられていましたが、まず地域館を含めた総括報告をい

たします。

まず地域の課題解決、すなわち日常生活上の問題解決のための区民への支援です。いろいろな取り組みが行われましたが、健康を意識した図書の充実、あかちゃんタイムの全館での実施、そして自殺予防月間への取り組みを5月と9月に集中的に行いました。

次にレファレンスサービスですが、資料探索援助のために図書館ホームページにパスファインダーを作成して公開しました。また前年に続いて、「広報すぎなみ」にレファレンス関係の記事を掲載して、皆様に理解を深めていただくようにしました。

続いて学校支援に関してですが、昨年度学校司書の全校配置が実現いたしました。その関連で、中小学校図書室に対する資料及び相談機能の面で、中央館はもとより地域館による支援の強化を図りました。また、夏休みの子供たちのために、図書館会議室や多目的ホールを調べ学習室としても開放することができました。

業務執行体制に関することですが、指定管理館、委託館などにも区政に関する情報提供を行い、地域の課題への認識を高めることに努めました。

次の図書資料に関しましては、杉並文士関係の資料に限らず、昨年度は杉並が舞台となった文学作品や杉並区に関係する人物伝などを収集しました。また、資料管理計画に基づいた収集と同時に、資料の除籍も実行しました。

図書館に関する情報発信については、これまで以上に「広報すぎなみ」、「図書館ホームページ」、「図書館だより」などなどさまざまな媒体を通じて、サービスの内容を広報、告知しました。この活動は今後も重視してまいります。

次に協働事業です。これにつきましては、区の児童青少年課で企画した「中学・高校生読み聞かせボランティア講座」を図書館が実際的に行いました。そしてその参加者が下井草図書館で実際に読み聞かせをしました。講座を実施したことが成果に結びつき喜んでいきます。

利用者懇談会についてですが、ボランティア団体、利用者団体との懇談会を2回開催しました。また、ユースプロジェクトのメンバーが中高校生を対象に行ったアンケート結果が図書館に提供されています。

続きまして、障害者ほか特定利用者サービスの面でございますが、地域館で

対面朗読室のない図書館においても、利用希望があれば、講座室等を活用して対応しています。

最後になりましたが、「図書館経営評価の結果に基づく改善策への取組等について」は、資料に記載の内容で取り組んでおります。

各館個別報告

中央図書館次長、中央図書館では、業務委託業者の T R C の実施も含めましての事業報告になりますが、読書推進事業、名義使用の事業、読み聞かせなどなど多種多様な事業がありますが、資料の4-2に記載のとおりの内容で実施しました。なお地域図書館については、各館長から報告します。

永福図書館長 詳細は資料に記載ですが、特に力を入れた点をご報告いたします。先ほど来中央図書館次長が報告したとおり、昨年度は赤ちゃんを含めた乳幼児並びに保護者の方への図書館利用への促進を課題として各館においてあかちゃんタイムを実施する方針が示されました。当館においてもあかちゃんタイムの実施を開始いたしました。折から近隣の児童館より一、二歳向けの会でブックトークの依頼がありましたので、通常の赤ちゃんタイムプログラムの0・1・2歳向けにわらべうたと絵本のブックトークに加え、一、二歳児保護者向けのブックトークも実施いたしました。乳幼児保護者の利用の促進に努めたというところが特徴です。

中央図書館次長 柿木図書館につきましては、私のほうから報告いたします。同館では快適な図書館利用を第1の計画として掲げましたが、そのためにまず明るい接客に努めました。そのような図書館利用促進に努めるとともに、情報拠点として、展示、講演会、工作会等さまざまな事業を実施しました。詳細は資料に記載のとおりですが、あかちゃんタイムには大変好評、活発であったようです。毎回20組ぐらいの親子が参加しました。

高円寺図書館長 内容詳細は資料に記載のとおりです。高円寺図書館では、貸し出し、返却などカウンター業務を間違いなく正確に行うことが運営の課題でした。とりわけ10月に図書館システムが入れ替わることが決まっておりましたので、システム改修を大きな課題として捉え、改修後も円滑にカウンター業務ができるように、カウンター周りを整理整頓するなど、間違い、ミスを防ぐことを第1に、そして、間違いがあったときには、その都度、朝のミーティン

グや月1回の係会で検討し合って、改善を行って運営してまいりました。

宮前図書館長 詳細は資料の事業報告書のとおりですが、地域と図書館の連携を最重要課題としてメインにして年間の事業を行ってまいりました。講演や企画事業は「宮前図書館を良くする会」を中心に地域のボランティアとの協力の下で実施してきました。

成田図書館長 詳細は資料をごらんください。中高齢者への支援と学校連携に重点を置きました。とくに学校連携ではこういうことが実現しました。一般の利用を高めることができるように、近隣の東田中学校の図書委員会委員の生徒さんに成田図書館の本を展示してもらいました。大変協力的に関係を築くことができました。

中央図書館次長 西荻図書館については私が報告します。催し物や講演会などでは、講師を地域在住の方にお願ひし、地域性を加味したテーマで開催するように努めました。また、あかちゃんタイムでの工作会などではボランティアとの協働を積極的に行いました。西荻図書館はその他に事業をいろいろ活発にやっておりますが、職員だけでなく地元のボランティアの方ともしっかり協働しております。実際に行った事業内容は記載のとおりです。

阿佐谷図書館長 阿佐谷図書館は今年の2月11日に開館20周年を迎えました。記念事業として企画したさまざまな行事を行いました。指定管理2期目の集大成という意味合いを込めて、単発の行事にとどまらず、定例事業や展示とも連動させることで、どの世代の方にも楽しんでいただけるものとなりました。

詳細は報告書のとおりですが、中でも力を入れたのは、「中学生がえらんだおすすめ本」と「阿佐ヶ谷・荻窪界限文士村ガイドマップ」です。おすすめ本リストは近隣の四つの中学校の協力を得たもので、去年の夏から学校司書の方々とコンタクトをとりながら、作成してまいりました。その表紙に東原中学校の美術クラブの制作のものを採用しました。ガイドマップは、今まで6年間、阿佐ヶ谷史跡散歩で訪ねた先を網羅したこと、そして重点分野の阿佐ヶ谷文士村について初心者の方にわかっていただけるような内容としました。

私たち職員自身が阿佐ヶ谷を知ることが運営の初年度からコンセプトにしてまいりましたが、6年目で利用者の皆様へこういった形で情報発信ができたこと、また、こちらのガイドマップについては、各地方からの問い合わせもあり

ますし、大きな反響をいただいております、大きな成果だったと思っております。

南荻窪図書館長 まず、明るく親しみやすい丁寧な接遇、がスピーディーで正確なレファレンス、は閲覧サービスの充実、に重点を置き図書館運営を実施してきましたが、ある程度それが実施できたと考えています。資料の整理及び読書推進事業については、記載のとおりです。利用者への情報発信につきましては、「おたより」では、一般向け「本の森」と児童向け「あおぞらつつしん」、それとYA向けの「LIGHT HOLIC」のチラシを発行し、本の紹介や行事等の情報を発信し、近隣施設にも送付いたしました。またリサイクル本の提供などを行い、地域の行事の参加者や図書館利用者に好評をいただきました。そのた利用者意見の把握や研修実績などは資料7に記載のとおりです。

下井草図書館長 下井草図書館は従来から定評のある名作を中高生だけでなく大人の方にも読んでいただくということで、名作文庫コーナーを常設しております。これをより一層充実させていくために、昨年度は上橋菜穂子先生による、自身の読書体験「わたしを“わたし”にしてくれた本たち」の講演を中高生を対象として行いました。また一般の方を対象とした事業として、フランツ・カフカの「変身」を中心とした内容について、池内紀先生から講演をいただきました。両先生とも著名な方なのですけれども、快く引き受けていただいております、感謝しています。。

さらに昨年度は中学校の学習支援とブックトークを始めました。学習支援については、公共図書館の利用の仕方を近隣の中学校の中瀬中の1年生に館内の施設見学を、また調べ学習についてはテーマを決めて講義を行いました。ブックトークでございますが、以前、区民の方から古代エジプトの絵画「死者の書」のレプリカをいただきましたので、それを使いながら、関連資料を紹介しました。

高井戸図書館長 高井戸図書館の何よりの特徴は、中学校の敷地の中に建てられている図書館であること、それから、学校図書室のドアを開けたらそこはもう公共図書館につながっているということです。これまで十何年間、そのドアは開かなかったのですが、まず一昨年度スタッフが打ち合わせのためにそこは通れるようになり、昨年度4月からは、全校生徒が読書週間のときにはそのドアを開けて、公共図書館、高井戸図書館のホールで本を楽しむことがで

きるようになりました。

高井戸図書館は子育てを重点テーマにしておりますので、小さいお子さんのためのあかちゃんおはなし会を3年前から実施しています。たまたま目の前に大きな新しいマンションができたこともありまして、75人を超える参加者があり、スタッフ一堂もびっくりしたようなこともあります。これからも地域の環境、条件を十分把握した上で、的を射たサービスをしていきたいと考えております。なおその他個々の事業については報告書に記載のとおりです。

方南図書館長 方南図書館は民間の保育園と併設されている図書館ですので、高井戸図書館と同様に幼稚園児らへの読書支援に力を入れてやっております。昨年度の特徴的な行事を申し上げますと、昨年は、たまたまですが、天体関係で特異現象が多くありましたので、バルーンドームを使ったプラネタリウムの星座を観測する講座、JAXA宇宙航空研究開発機構の先生をお呼びして宇宙実験教室など、タイムリーな企画を心がけました。また年度末には、絵本作家の長野ヒデ子先生をお呼びし、大人にも子供にも喜んでもらえた行事を行うことができました。

今川図書館長 今川図書館は、従来から子供の読書活動の推進を重要な課題と捉え、児童対象の事業に力を入れてきました。一昨年度あかちゃんおはなし会を、年6回、隔月で実施しましたが、24年度から毎月開催ということで拡大しました。また読書アドバイザーを講師に招いて開催した「赤ちゃん楽しむ本の選び方」の講演会では、子供と親の心をつなぐ絵本の紹介や読み聞かせ方などの話をしていただき、乳幼児を持つ保護者の方に大変に好評でした。

また、杉並区子ども読書月間事業として開催した展示会「すぎなみのこどもたちにおくる本」では、大人の利用者の方から、子供たちに読んでもらいたい本を推薦していただき、その推薦文とその本を展示して、多くの子供や保護者に見ていただきました。さらに、地域で子供たちの読書を応援していくために、近隣の小学校4校と中学校3校の学校司書、それから家庭文庫や読み聞かせボランティアによる「子どもの読書応援団」という意見交換会を催し、子供の読書環境の整備に努めてきました。

平成24年度事業報告に対する質疑

委員 私は前期から委員をやらせていただいていたから、前と同じこと

を言うようで恐縮なのですが、再度申し上げます。事業報告はどうしてもこの資料のような形式になるのだらうとは思いますが、年間の事業のとりまとめとして協議会に提出される場合には、この年度の図書館の活動として評価できる点はこれこれである、課題としてはこれこれであったなどと簡潔明瞭に総括した報告を頂きたい。例えば、先ほどの説明で、あかちゃんタイムというのは全館に展開できるようになりました、ということが実績としてとりまとめられる。その一方で、例えば利用者懇談会ですが、この会はこれまで実効性について指摘されてきました。昨年度も2回ばかり何か開かれましたが、それらの会で、その問題に対して具体的にどのような進展があったのか、どのような課題が積み残されたのか。そういった全体的な評価が欲しいところなのです。協議会での審議には、かくかくしかじかの事業を行いましたという報告が大事なのではなく、年間の事業展開をつぶさに分析した上での図書館側の評価を2-3枚程度に取りまとめて提出するのが本来の役割じゃないかと思うんです。

もう一点、地域館の問題について申し上げたい。いまの報告で、たとえば成田図書館では中高年齢者の生活支援を、高井戸図書館では子育てを、などなど各図書館それぞれに重点課題を設定して、これこれの実績がありましたと報告されました。それら各地域図書館が設定している重点課題を、他の館の方々はどうか認識しておられるのでしょうか。私は「宮前図書館を良くする会」を去年1年やってきましたが、一般的に考えれば、それは我々のその地域の人たちに対するコミットメントだという気持ちがある。設定された課題に対して具体的にどういうアクションをとられたのでしょうか、あるいはそれぞれの課題に関連する図書をどのように選択・収集し、区民の人たちに提供したんでしょうか。そういうことを示さなければ、重点課題として挙げている意味が余りないんだらうと思うんですね。このことは問題提起なのですが、一度図書館の中では議論していただきたい。

あと1点、これは質問です。口頭で触れられませんでしたでしたが、資料に中央図書館で調べ学習のコンテストがあり、その中で1点が優秀作品になったと書かれていました。これは、例えば図書館のホームページで、調べ学習というコンテストがあって、こういう学校の生徒たちが参画して、杉並区ではこんな評価を受けたなどというのが公開されると、そういうことに対する問題意識を高め

る広報活動になると思います。個人情報の問題がありますが、それはともかく、そういう取り組みがされているのか、あるいはどこかで広報されていたのかをお尋ねしたい。

会長 今回の発言には二つのポイントがあります。最初の年次報告のあり方の問題については詳細な資料を提出して報告されるのはいいんだけど、もうちょっとメリハリの効いた、具体的な、ストーリー性の高い報告をしてほしいということだと思います。たしか去年もそういう話が出たんですが、今回もまた去年、あるいはそれ以前と同じようなやり方ですね。事業内容としては、少なくとも4年前よりずっと伸びてきているのは事実ですが、事業報告については少しも改善されていない。口頭では短い時間、それこそ二、三分間でするわけですから、簡潔・明瞭だけでなく、事業展開が目浮かぶように報告されるよう工夫して欲しい、と思っています。次回そうされるよう期待します。

中央図書館長 そういったストーリー性のあるわかりやすい報告を求めるとのことですが、今回は例年の事業報告を時間的な制約で端折ってしまった部分がありましたが、9月から10月に昨年度の運営状況の報告書をつくりますので、その中ではいろんな分析と評価入れたいと考えております。事業者が変わったところもあって今回はすべてにそうできませんでしたが、今後は、各年度の事業展開の分析、自己評価を工夫して出していきたいと思っています。

事業係長 もう1点の、図書館がかかわった調べる学習コンクールは、「図書館の学校」という公益財団法人が主催し、図書館が間に入って行われました。区のレベルの大会の結果は各学校で発表しておりますが、図書館のホームページには載せませんでした。全国大会の結果は財団から連絡を受け、各学校に報告をするだけで終わっております。ホームページへの掲載については、これから考えてまいりたいと思います。

委員 そうですね、制約がなければ、図書館がかかわった事業の一端でもあるわけだから、是非PRをしてほしいところですね。

《報告事項4：平成24年度子ども読書活動推進計画について》及び《報告事項5：利用者満足調査の結果について》

中央図書館次長 子ども読書活動推進計画について説明します。まず、家

庭・地域における読書活動の推進の面ですが、あかちゃんタイムやあかちゃんおはなし会などの乳幼児と保護者対象の事業が拡充され、全館で実施されるようになりました。また、児童館や保育園や子供園では、日常的な読み聞かせの活動がより一層活発に行われるようになっております。

図書館での取り組みでは、10月に図書館ホームページをリニューアルいたし、こどもページ、ヤングアダルト対象のページの改善を図りました。また、パスファインダーを新規に掲載して、利便性を高めました。また、中高生向けサービスを充実させ、学校への支援を強化しました。また学校司書に伴い、図書館としてもその連携をさらに密接にするように図ってきたところです。

学校における取り組みでは、学校図書館サポートデスクがさまざまな対象者に向けた研修や講習会を実施しました。学校司書の活動やサポートデスクを利用し、夏季休業中、学校図書館の開館についても実現することができました。

続きまして、情報発信についてですが、杉並のあかちゃんタイムが全国紙や地方紙に取り上げられたことなどは、図書館事業を幅広く発信できたと考えております。また赤ちゃんタイムについては杉並区制施行80周年記念の中の映像としてシーンも残されました。

最後に関係機関との協力・連携ですが、昨年度、「ポラリス がやってくる」という事業にあわせて、中央図書館、科学館、生涯学習推進課が科学読物研究会と協力いたしまして事業を盛り立てました。また、こういった取り組みを、今後も生涯学習部門全体で力を合わせて、広がりのある事業を計画していきたいと考えております。

中央図書館次長 利用者満足度調査については、前年度の調査に入る段階から調査項目などについて協議会から貴重な意見を頂いたり、調査後の中間報告も詳細にしてきましたが、今回その内容が全て固まりました。前回（平成23年度）調査と比べまして、若干の数字の動きはありますけども、傾向としては特に大きな動きはなかったと認識しています。詳しい内容については資料のほうをご覧ください。

子ども読書推進活動並びに利用者満足度調査報告に対する質疑

【ビジネスマンや自営業者への図書館サービスについて】

委員 いまの報告を聞き、関連の資料を見ていると、高齢者向けと子供向け

の事業は内容が充実してきています。しかし、前期最後の協議会でも申し上げたのですが、ビジネスマンの利用についてもっと考えて欲しいと思います。各図書館でやっている事業、イベントなどを見ても、20代、30代、40代のサラリーマンの男性利用者が参加できるようなものは少ないですよ。現実にはそれができるかどうか私もわからないですが、やはりそういった方たちにも使っていただけるような、ちょっと行ってみたいと思うような企画とか、そういったものが出てくるといいなと思います。

区の図書館は、区の住民だけではなくて、杉並区内の会社に勤務している人も使えるわけです。そうすると、個人、住民とのかかわりだけではなくて、杉並区内にある会社との連携が広がっていいと純粋に思うんです。何ができるかどうか私自身わからないのに、無責任な言い方にはなってしまうのですが、そういう広がりを求めることが、杉並区の図書館が目指している知の共同体とか、図書館の進化とかに繋がっていくんじゃないでしょうか。今すぐということではないにしても、そういうところに考えを向けて行って欲しいなと思います。

中央図書館長 図書館としてもその側面での事業の必要性を認識していますが、具体的な方法といいいますか、繋がりといいいますか、その辺についてはなかなかきっかけがつかめなところ。もし委員の皆様方に、こんなことができるんじゃないかというようなことがありましたら、どうか、ちょっとヒントをいただければと...

委員 世間のビジネスセミナーとかはみな非常に高いお金を払って行くじゃないですか。ですからそれだけそういう需要がある。区の図書館でそこまでのレベルのものができて、人を集められるかという、そこはなかなか難しい問題なんだと思うんですけれども。やっぱりそういう、勉強したい、学びたいというニーズはあるわけですよ。

こういう子供向けや高齢者向けのイベントが非常に多いのですが、そういうのを30代のビジネスマンから見ると、自分が出掛けて行って何か楽しいことがあるとは正直ちょっと思えない。そうすると、ただ必要な読みたい本をパソコンで予約して借りるだけになってしまう。それだけではなかなか広がりをつくることにはならない...

中央図書館長 図書館にあるデータベースに企業や会社の情報とか、いろん

な事業の資料等がありますので、そういったものも使えればと思うのですが。

会長 いま私が関係している会員制ライブラリーでは、会員向けにいろいろなプログラムを用意しています。ライブラリー事務局が企画し、メンバーの中から協力者を得て勉強会であったり、交流会であったり、いろいろな形式の催しが頻繁に行われています。協力者は、その場合、俗に言うボランティアなのですが、単なるお手伝いではなく、ワークショップやシンポジウムのコーディネーターやファシリテーターの役割をしたり、時には講師になったりしています。またメンバーが企画を出してライブラリーがそれに協力するタイプのものもあります。

いずれにせよ、この10年間そういったプログラムにかかわったり、あるいは観察してきたことで大事だなと思うことは、何であれ内容が充実していることが第1、次にプログラムの告知が重要なんですが、継続性がそれと同じくらい大事だということです。大概始まりは主催者たちも参加者も意気込んでいて上手く行く、しかしそれがなかなか後に繋がらない。最初は何十人ものメンバーが集まって賑々しく始まるんですが、だんだん萎んでいく。でもあきらめたらそこでお終い。ほそぼそでも続けていると、ずっと続くもんなんですよ。

公共図書館でのこの種の事業はいま子どもたちと高齢者のためのものになっていて、中抜き状態なので、いま提言のあったビジネスマン向けの事業を立ち上げる、なんとしても立ち上げることは非常に大事だと思います。杉並のどの図書館でもいい、まあ私は中央館が先鞭をつけるべきだと思うのですがね。

実際的な面では、まずプログラムの時間帯です。このライブラリーの場合は、19時15分から1時間半、長くとも2時間。さまざまなテーマやトピックが取り上げられます。同じスタイルで同じテーマが続くと実施する方も参加する方も飽きちゃいますから、見た目でもいいから常に新しく、やり方を変えたり、テーマを変えたりすることにも配慮がいる。どんどんどんどん世の中が変わっていきますから、新しいテーマをとらえるのはそうむずかしくはないんだけど、そのテーマにある程度明るい人に協力してもらわなければならないわけですが、常に何らかの工夫が要る。でも挑戦すべきでしょうね。

中央図書館長 社会教育全体としてはいろんなそういう試みが、例えば大人

塾など、みんな自主的に集まって、いろんなテーマを考えてやっていくというのはかなり活発に行われています。ですから、図書館としての特色を、資料の活用とか、本に結びつけていくといいますか、図書館でなきゃできないことを見つけ出して、そういった社会教育でやっている方たちと連携をとってやっていくとか、ちょっと考えてみたいと思います。

副会長 話題は、自営業者や一般の勤め人の方々も含めて図書館にもっと足を向けてもらうということですね。そうすると、その人たちがどんなことを図書館に求めているかということをよく調べないといけません。参考になると思うんですが、例えば品川区では、ビジネスの分野のサポートをする観点から商工会議所と連携して、セミナーを開いたり、相談も受けて、もし必要ならば融資の書類まで取りそろえているなどという取り組みをしています。

そういう仕組みでやっているところもありますね。

委員 それは無料なんですか。

副会長 そうです。ですから、社会教育とか教育委員会という枠だけでなく、地域の商工会議所とか、あるいは区の中で言うと経済課であるとか、そういうところと連携して、図書館に目が向いていない人たちにそういう有益な情報を提供すれば、足を運んでももらえると期待できる。そういうふうにニーズを発掘されるとよろしいのではないかと思います。

委員 私、前回レファレンスサービスを利用したという話をしました。それは、実は仕事絡みだったんです。私の仕事でおつき合いのある人が困っていたので、その手伝いをするために永福図書館で、問い合わせをしたら、ネットでどんなに調べてもわからなかったことがある程度解決したんです。そのことを話したら、「それはすごい、どうやって見つけたの」と言われたので、「図書館の人にちょっと頼んだんです」と白状したのです。仕事ことで困っていることを図書館のレファレンスに無料でやってもらっていいのかなと、ちょっと心配というか、何かちょっと罪悪感を感じたんですながらお願いしたんですが、本当に一生懸命やってもらい、答えが出てきた。それをその人に伝えたら、「すごいね、と。これを社員とかを使ってやったら何十万円もかかっちゃう」なんていう話になったんです。

そうしたビジネスがらみのことを無料で手伝うこといいかどうかよくわか

らないのですが、でも、有料でもやってほしいというニーズというのもあると思うんですね。ネットで調べただけでは解決しない。

委員 非常に個別のニーズに対してレファレンス的な機能でどう対応するかという話と、ビジネスパーソンの全体を底上げするための一般的なスキルとか知識とかは「宮前図書館を良くする会」での活動の一端なんですけど、そこでいろんなイベントを年齢階層別に分析してみたんですね。そうすると、ビジネスパーソンのところは真っ白です。どの項目もない。そこで、それに対して一体どういうアプローチをするかという議論を大分したんですけど、いわゆる大手企業に勤めている人は、企業内でいろんな研修があるから、チャンスもあるが、中小企業だとか、これから起業しようという人たちにそんなチャンスはない。そこでこうした人たちに対して何か支援するプログラムができないかということになるのですが、そのプログラム自体とそれを担ってくれる講師が見つかるかどうかという問題に行き着くことになる。

商工会議所の杉並支部にも行って、ちょっといろんな話を聞いたんですけども、杉並区というのはやっぱり住宅都市ですから会議所に入っている企業は、もうほんの小さなサービス業的な企業で、余りこれといった知恵がないんですよ。それじゃというんでプログラムを我々メンバーの中で組んでみたんです。宮前の会の中では、元外務省におられて中曽根内閣の秘書官をやったメンバーの人だとか、商社に勤めていた人だとか、メーカーに勤めていたとか、いろんな方がおられますのでね。組んではみたんですけど、やはりプログラムを実行するとなる、プログラム開始の時間が決められていてビジネスパーソンがその時間までに来られるかどうかなどなど、いろいろなことが出てきてちょっと頓挫しているんです。

ただ、理想系としては、今、品川のお話をされましたけど、この会に入ったときに、私、以前読んだニューヨーク図書館の、「未来をつくる図書館」。あの中でビジネスパーソン向けの非常にすぐれた組織ができていますよね。あれはエンタープレナーというか、起業家のためのいろんな支援をする、それに伴ういろんな文献がきちっと整備されている。非常に大きな組織になっていると思うんです。そこまでは行かないとしても、やっぱりああいう活動について一度調査をいただいて、別に杉並区に限ったことじゃないと思うし、東京都とし

時代ですから、動画だとか写真だとかそういうものを入れて、それぞれの活動について知らせることもあっていいのではないのでしょうかね。

それに、いろんなイベントをやったときにアンケートをとられると思うんです。何人かの方々に了解をもらって、そのアンケートを載せて、実際に参加した人たちがそれに対してどう思っているのか、どう評価しているのかなどを載せていく必要があると思います。手数は掛かりますが、ホームページが刷新されたわけですから、もっと積極的に活用以上は使っていないといけない。少なくとも今のような非常に静態的に、今後こんなスケジュールでやりますということだけではもったいないですよ。

会長 先に話題になった事業者へのサービスメニューについてですが、ホームページを一つのとっかかりにして、利用者への新しいプログラムが考えられないだろうかと思うんです。例えばデータベース。データベースの使い方って簡単なようですが、検索を効率、効果的に行って欲しい情報を素早く探し出すというのはなかなか骨で、ちょっとしたコツが要るんですよ。そうしたコツを利用者自身で身につけるのをお手伝いするのは図書館の大事なサービスの一つだと思うんです。

ただその前提として、新しいシステムやホームページに対する自己評価、そして利用者の評価はどうなんでしょうね。

委員 インターネットの利用者は増えましたか。増えたほうが手間がかからなくなるんですけど。

情報化担当係長 利用者が増えたかどうかは、こちらからはわかりません。アクセス件数としてはほぼ前と同じぐらいではありますけれども、同じ人が何回も使っているかもしれませんし、そういったところでは人数というのはわからないんですけど、ただ、使いやすくなっていると思いますし、サービスが増えていますので、多分、私としては増えているというのを期待したいなというところですが。

委員 できるだけネットを利用していただいたほうが、図書館のバックオフィスの仕事で電話連絡とかそういう手間がなくなるんですよ。

情報化担当係長 そうですね。予約とかを主に、便利なので一度使っただけならば、恐らくインターネットの利用者になっていただいているのではない

かなとは思いますが、大きく後退は、全然していません。

《報告事項 6：平成25年度予算の概要について》及び《報告事項 7：平成25年度事業計画について》

中央図書館次長 平成25年度予算の概要ですが、大きく図書館の運営管理費と維持管理費に分かれています。

運営管理費は、区の図書館自体のサービスをどのように提供するかということにかかわってくる予算です。重要なところでは資料の購入、またシステム経費、講演会や講座等の事業経費などがこれに含まれます。維持管理費は、図書館館そのものの維持管理で、保守点検、光熱水費、施設・設備の維持と修繕に充てる経費です。

24年度と比べて25年度は減額になっていますが、その大きな原因は、昨年度新図書館システム導入するのに必要だった大きな経費が今年度はシステムの維持に関する経費になったからです。ですから、財政再建のために大きく削られたということではありません。区全体の厳しい財政予算の中での若干の縮小ということでございます。

25年度の事業についてですが、年間の計画については、まず、昨年度策定した図書館サービス基本方針を基づく取り組みの初年度というところですので、それを踏まえて事業計画を立てています。

最初に中央図書館の基本方針ですが、「学びの場」・「知の共同体」・「楽しい交流空間」としての図書館を目指す事業展開を実現する基盤づくりとして、各関係機関との連携、学校支援の強化、研修の充実による図書館全体の力量の向上、そして広報活動を重点にしていきます。

次にサービス面についてですが、大きく10の項目を設定しています。第1に資料の充実、第2が誰もが利用しやすい図書館にすること、第3がレファレンスサービスの充実、第4は、講座、講演会、展示、行事などです。さらに第5がボランティアとの協働事業、第6が快適な読書環境の整備、第7が子ども読書活動の推進、第8として他機関との連携。第9が人材育成、研修計画等、第10が広報、情報発信の充実、です。

以上の10の項目につきそれぞれ最終的にあるべき姿、つまり達成目標、そし

て、今年度一年においてどこまでそれを持っていくかという年度の目標という形で組み立てを設定しています。項目が多いので、一つ一つ説明できず申しわけございません。資料をご覧ください。

また、地域図書館につきましても、いま申し上げたことと同じように年間の基本計画は、「学びの場」・「知の共同体」・「楽しい交流空間」をしっかりと踏まえて10の項目にき、各館での事業計画を立てております。

なお、合わせて中央図書館の「杉並区立図書館サービス基本方針に基づく3年間のロードマップ(中央図書館)」を作成して資料に添付しました。

予算並びに事業計画についての質疑

【図書館システム予算について】

委員 システム費用についてですの確認です。平成23年度の実績を見ると、図書館のシステム管理の費用が約1億4,000万円ぐらいだった。今回6,500万円ということは、この数字の比較で認識しておけば正しいということでしょうか。つまり23年度も旧システムの維持管理費用だったが、新しいシステムを導入したことによって、維持管理費用は大幅に安くなったと、理解していいですか。あるいはその1億4,000万円の中にはシステム開発費用が一部含まれているというようなことになっていますか。

情報化担当係長 はい、システムの運用費用はほぼ半減しました。機械のリース費用なんかも大幅に安くなっていますし、保守に掛かる費用も安くなっています。

【25年度事業計画の区民への告知について】

委員 25年度の事業計画は今日いただいたんですが、ホームページに出されていますか

企画運営係長 只今、作業中でございます。

委員 ところでこのパンフレットの作成は3月と書かれていますね。もう6月ですよ。そんなおかしなことはないと思うんです。本来は区の80周年のときのビジョンがあり、教育ビジョンがあり、そこと整合性を持たせて出るというのが、一番相乗効果がある。教育ビジョンは昨年5月に上げられ、8月にもう推進計画としてえ立派なブックレットになって公表されていますよね。それはどうしてなのでしょうかね。いや、誰が最終的にこれを決められたのかどうか、

ちょっとよく私はわからないんですけど。

中央図書館長 以前この図書館協議会で最終原案を審議していただいて、決めていただいた後、教育委員会で今お手元の形の内容にして、そこで決定されました。それが3月の下旬ぎりぎりだったんです。

委員 教育ビジョンがもう既にできていたのに、教育委員会では、何で図書館ビジョンがこれだけ遅れたんだという認識がなかったんですか、

中央図書館長 区の企画担当部署との調整、予算案作成などなどいろんなものがありまして、図書館で出したものが、すぐそのまま通るわけではないんです。その調整でのかなり作業が、議会、予算議会の前でしたので、なかなか俎上に上げるというのが難しかったです。ですから、それが終わった後に調整をして、最終案が決定されるということで、3月の中旬に議会が終わったときに決定されましたが、その後に教育委員会を経て正式決定ということになったという経過でございます。

ホームページ上に、いま現在も載っていないというのは非常に申しわけないと思っています、これは早急にアップできるようにします。

会長 印刷番号が25年度になっているから、多分4月以降ですね、これ、印刷されたのは。ホームページに出すのは、PDFですか、それともHTMLで...

企画運営係長 恐らくPDFという形になるかと。

会長 それならそんなに時間はかからないんじゃないかな。

委員 だから、問題は、これをホームページに出されて、じゃあ、それに対してどういうメッセージをやっぱり出すかという。単に読みなさいということだけじゃないと思うんですよね。これをベースに、これから3年間、あるいは10年先に向かってということなんですから、それなりにやっぱりメッセージも加えて、告知すべきですよ。

中央図書館長 早急にやっていきたいと思います。

会長 忙しいことは重々わかるけども、優先順位をきちっと決めて仕事をしてもらいたいと思います。

【有料データベースについて】

会長 事業計画の今年度目標のレファレンスの項目に、有料データベースを

一つ追加することが予定されている。これは一般の日常生活者への有料データベースで「特に医学や健康等のためのもの」と補記されているのですが、それは具体的に何ですか。医学関係の専門的なデータベースについては私もわかるんだけど、一般の人たち向きのもは知らないのて教えて下さい。

資料相談係長 現在、新聞情報データベースは使えるようになって居るのですが、区民の方々が利用できる医療や健康にデータベースを今探しています。

会長 それでは具体的な候補があるわけではないのですね。わたしがこれをチェックしたのにはちょっとした背景があるのです。実は私は国際医学情報センター、昨年までは公益法人で今年度から一般法人に衣替えしたのですが、そこで30年以上評議員をしているのですが、この情報センターの仕事は医療・薬学情報を医者・医学研究者・製薬会社など専門分野向けに提供しています。医療情報関連法人なのでその専門的な情報を日常生活者向けに仕立て直したデータベース、例えば薬害とか食べ物アレルギーなどに対する有効なデータベースを作成し、それをインターネットを介して提供すべきじゃないかと提案したことがあるのです。この情報センターはその分野の団体ですが、わたしの提案したようなものはいまのところ実現されていません。ですから、確かめたのです。

委員 医療、健康のための有料データベースは多分いまでもこの図書館でもニーズはあるんだと思いますね。だから、都全体でタッグを組んで、バーゲニングパワーを發揮してコストダウンをするとか、そういう取り組みをやっぱりすべきだと思うんですよ。ぜひ、杉並区だけで個別的にするんじゃないで、他の区のニーズだとか状況だとか、あるいは都立の中央図書館などでの有料データベースの実態も調べて、やっぱりタッグを組んで取り組まれたほうが、コスト的には有利になると思いますので、その辺もご検討いただいたらいいと思います。

資料相談係長 データベースの導入について、他区との連携というお話ですが、契約によって、例えば導入しているのは中央館とあと地域館の何館ですが、その館数によって額が変わったり、あるいは回線の数によって変わったりしますので、今後ご指摘も踏まえて検討させていただければと思います。

【宅配等の障害者サービスについて】

会長 中央館なんですけど、今年度の取り組みに「宅配等の障害者サービス」

が上げられている。それに付随してボランティア講座云々と書いてあるんですが、具体的に説明して下さい。なおまた「宅配サービスの試行」と書いてあるんですが、障害者だけが対象なのですか。私も結構年をとっているのですが、一、二冊ならなんとかかなるけど、何冊もまとめて全集物を借りてくるときなんかちょっと大変なので、金を払ってもいいから届けてくれないかなと前から思っていたんですが、今年度目標と考えられているのは具体的に何ですか。

事業係長 宅配サービスは、実際には今、数名の方を対象に実施しております。実際に障害のある方で、ご自分で図書館に来られないという方を対象に郵送で実施しているんですが、このサービスを広げるとなると、職員だけでは対応できなくなるので、実際に郵送を超えてボランティアの方にお家まで行っていただくというところまで、今の計画として考えております。

対象をどうするか、障害者から、もしくは高齢でなかなか図書館においでになれないというところまで広げるか等については、これからボランティア講座実施とあわせて考えていくところです。

会長 そうすると、二つばかりクリアしなきゃならないことがでてくるんじゃないか。つまりどの程度の障害か。たとえば介護ランクなんかで区別するかどうかと、その人の面倒を見るボランティアをどう確保するか。

事業係長 はい。同居の家族とか...

会長 そうですよ。ただ、メリットも出てきますよね。見守りもできわけから...

事業係長 そうですね、定期的に訪問するというところで。

会長 ですよ。障害者対象は合理的だけど、だんだん普通の人にもこれを広げてくれれば、もっといいかなと私は思っているんです。

事業係長 自治体によっては、例えば75歳以上ですかね、年齢の上の方でしたらというところもあるんですけども、そこまで広げるかどうかはまだ考えておりません。

会長 あとは、赤ん坊が生まれたばかりの人とか、逆に。ずっとヘビーユーザーだったんだけど、子供ができちゃって、しばらく本を借りられない、なんていう人たちもいるかもしれない。まあ、そんな人たちは旦那さんに行ったらっしょいということになるのかもしれないけどもね

【SNSの活用について】

会長 SNSの利用も達成目標に上げられていましたが、具体的に見えないところがあるんですが

中央図書館長 ホームページでの情報の発信にプラスしてSNS関係のものを使えないかということなんです。これは区の電子情報化の計画の中で検討を進めていくことになっているんですが、それとの整合性をとりながら進めていくことになると思います。しかし現段階では、若干後送りになっている部分なんです。

いろんな制約もありますし、それらを踏まえながら図書館でも検討していく方向ですね。図書館自体でやるか、それとも区全体で進めるかも課題です。そういったいろんなことを発信をするというのはなかなか難しい面もあるんですね。たとえば発信の仕方ですが、図書館が情報を提供して、応援団みたいなボランティアの方たちに協力者にやってもらうとか、東京都ではいろんな局が全部ツイッター等を始めましたけども、そのフォロワーが多いところと少ないところがあるとか、返信についてもかなり差があるというようなこともいわれていますし、いろいろ検討しなければならないことがおおいのです。都内のほかの図書館でもやっていますけれども、なかなか難しいようなんですね。ソーシャルネットワークなんだけど、広がりがなかなかないともいわれているし...

会長 効果がないということですか。

中央図書館長 そうですね。例えば往復の、どんどん返していくと、その時々、頻繁に、その作業をどうするかとか。

会長 会社のコールセンターみたいなポストが必要になってくるんですね。

中央図書館長 そうですよ。その人員も必要です。

会長 流しっ放しじゃなくて、これは何だ、とかというようなツイートが来ますから。それに対して答えなきゃ。

中央図書館長 そうですよ。当然返ってきますので、リツイートしなきゃいけないということがありますし。それから、それを全部任せて、その担当の職員がやるというのはなかなかいろんな問題があります。ですから、どこまで行政としての中でそういったものを返せるのかということがありますので、ちょっとお時間をいただきながら検討したいと。

会長 そうですね。これは研究課題ではあるけれども、うまく使えるかどうかというのはよくわからないね。

中央図書館長 そうですね。検討はしてみるということですね。

会長 これには結構人手がかかります。要するに、専任でなくてもいいんだけど、コールセンターのポストが一つ確実に図書館の中で必要になってきますから。14館もあると大変ですよ。そういうポストをおいて速報性を持たせないと、ホームページと変わらないことになってしまう。

委員 私はちょっと違うふうに考えています。杉並区だと、例えば子ども向けに関して言えば、児童館とか図書館とか地域センターなどでいろんなイベントがある。とにかく、近くて、あまりお金のかからないところに行きたいというときにピンポイントな情報が常に流されているといい。何かそういうものを全部つなげてフェイスブックみたいなもて来週日曜日ここでこういうのがあるよと発信されるとそういう情報を探している人には大変便利だし、そうしたイベントに参加する人たちも増えるし、とてもいいと思うんです。たしかに誰がそれを運用するかは考えなきゃいけないですけど、そんなに大変ではないと私は思います。

【資料充実の具体的な方策について】

副会長 サービス基本方針に基づく図書館運営の中に、資料の充実という、非常に大事なものがあるんですが、これと、先ほど報告があった満足度調査の結果と関連させて見ると、きちんと考えなければならない問題がでてきます。とくに顕著なのが図書や雑誌に対する不満です。その満足度調査では、どういう分野の、あるいは具体的にどういうタイトルが欲しいのかというようなことはわからないと思うんですが、実はそのところが具体的にわからないと、具体的資料の充実を図ることができないと思うんです。

25年度の図書館事業計画とサービス基本方針に基づく運営の中で、資料の充実について、中央図書館はもちろんですが地域館全館でも採り上げられていますが、その点どうなんでしょうか。満足度調査あるいはその他の方法で、こういう資料が足りない、と。そのところに不満が利用者から集まっているというようなところを踏まえての計画になっているのかなという、そのところはちょっと知りたいなと思います。

資料相談係長 利用度満足度調査での図書館の蔵書に対する不満に関しては、明確には把握していませんが、資料の選定に関して、利用者の方々の需要との関係で申し上げますと、未所蔵のものはリクエスト（利用者からの購入申請）で、件数が多い場合には新たに購入するという形で応えているところです。

会長 満足度調査に毎回現れている資料不備の不満は、ベストセラーなどの貸出請求が非常に多くあり、半年ぐらい待たなきゃならないという人たちの不満が強く反映して、蔵書の充実度や整備の状況に印象を持っていないのではないかと思います。ただそのことに対してもっと具体的に計画書で示すべきだという点については、副会長さんの意見の通りだと考えます。リクエストの分析はその一つの方法かもしれないけど、それだけでは不十分ですね。

副会長 はい、問題は どうやって把握するかですよね。だから、リクエストは個別具体的にははっきりしますが、ただ、いま読みたいという利用者の要求で、バランスよく、足りないもののリクエストが常時出されるわけじゃない。個別的な要求が非常にとんがった形で出てくるわけですから、それに頼って補充すればいいという話じゃないと思うんですよね。全体的に どうやって自分の館の足りない資料をそろえていくかというのは非常に難しい課題なんですけど、それをきちんと踏まえて計画化しないと、せっかく資料費を使っても満足度が上がらないのではないのでしょうか。

資料相談係長 私どもとしては、その時々の方々の関心、一つの事例で申し上げますと、たとえば東日本大震災や原発事故そして放射能問題などに関する資料を恐らく区民の方もいろいろ関心を持たれるだろうと推測して、それらに関連する図書を、あるいは、若者たちの就労問題のような社会的な問題については若者たちの就労の支援になるような図書、こういうものを図書館としては提供するのが大切だと考えています。そういった区民の方々のその時々々の課題や問題の解決に役立つ図書を収集するというのが基本的な考えです。

会長 リクエストされた本から区民のその時々々のニーズを探るというのはわかります。個別具体的なデマンドから、その背景にあるニーズを探り、そしてその背景にある社会的な課題や問題を確認して、本を集めるやり方はたしかに重要ですが、ちょっと観点を変えますが、ある地域館の蔵書があるテーマに関して足りない、あるいは古い資料が多いので、新しく追加したいという計画、

あるいは報告を受けた記憶あるんですが、それらも資料選択と収集の重要なポイントだと思うんです。しかしそのためには蔵書を見直さなければならない。つまり図書館がすでにどんな本を持っているかを知らないと、何が足りないなんてことはわからない。いまの質問は、利用者満足度調査の蔵書に関する不満の原因をきちんと捉えていて、それを資料充実計画に反映させているのかどうかということだろうと思うのですが...

副会長 そうです。それからこういうこともその不満の原因の一つじゃないかと私は考えるのです。分担収集などで、杉並区としてはどこかの館が受け入れているけれど、自分が普段行っている館にはなくて、そのまま終わっちゃったとか。あるいはそのときにそれを所蔵している区内の他の図書館を紹介して貰えなかったとか、そういうこともあるかもしれませんね。区の図書館から都立中央図書館にリクエストされれば協力貸出しの仕組みもあるわけです。だから、他館とのネットワークがうまく機能しているかどうかとも考えてみるべきでしょうね。

【外国人住民のための外国語資料の収集について】

委員 私も中央館の資料の充実に関してお尋ねしたい。外国語の資料の収集のことなのですが、ドイツ語、フランス語、イタリア語、スペイン語のうち、ヨーロッパ主要言語となる言語の何か一つを選択しますとということですね。それから、英語、中国語、韓国語は割合そろっていますという話なんですけど、なぜヨーロッパ主要4カ国なんですか。これから、アジアの世紀と言われる、杉並区の中でも例えばタイの人だとかインドネシアの人だとか、あるいはブラジルの人だとか住んでいる。杉並区とその近隣を含めて、外国人住民国別構成がどうなっているかわかりませんが、ヨーロッパの人たちが多いんですか。なぜ「ドイツ語、フランス語、イタリア語、スペイン語」という表現になっているのですか？

中央図書館次長 図書館での外国語図書ですが、一般的には英語を中核として中国語と韓国語が併記されています。それ以外の言語についてはほとんど触れられていません。世界的な公用語ということではフランス語ですが、ロシア語などもそうだと言われている。区役所で翻訳を手がけているところでもそうなので、図書館での外国語の本について考えるとすれば、ドイツ語、フランス

語、イタリア語、スペイン語などと少し絞ったわけです。

委員 私は、現実にはアジア出身の住民がどの程度いるのか知りませんが、世の中でのアジアシフトをどう捉えるかですよ。

委員 それは、個人情報の問題ではないと思うので、一実態も調べてみて、考えてみるべきでしょうね。区によっては、とにかくブラジル人の子なんかはいっぱいいるところにはいますよね。そうすると、ポルトガル語あたりの本をちゃんと準備することになると思うので、やはり事実をきちっと見据えた上での選択をぜひ考えていただきたいと思いますね。

委員 私はイタリア語話者なのでごくありがたいんですけど、それは国連の公用語にも入っていない。フランス語やスペイン語あたりだと植民地時代のものもありますし、別にそれぞれの国の出身の住民だけが外国語の本を利用するわけではありませんから、そういう観点からも検討して欲しいと思うんです。そういう外国書籍が実際に購入された場合に、その周知をどうするのかも大事ですよ。実際に外国書籍が購入され、日本語がわからなくとも図書館に行けば母国語で読めるとなったときに、そのことを知らないとやっぱり利用できない。ですから周知の仕方も今後は考えていく必要があるのかなというふうに思いました。

今年度協議会における今後の検討事項について

会長 予定の時間になりましたので報告事項は以上で終了とします。ほかになにかご意見は...

委員 一つだけお願いがあります。今後の予定のことですから、事前にきちんと設定するのはなかなか難しいのかもわかりませんが、前年度の協議会では、図書館ビジョンだとか、経営評価のあり方だとか、そういう大きな固まりでずっと議論してきたわけですよ。今回はそのビジョンを受けて、各論的ないろんな議論になるんですけど、年間の4回とか5回とかいう中で、やっぱり事務局サイドとして大きくこういうテーマを順番に議論していきたいという大まかなスケジュールがあると思うんです。たしかにそのときそのときのアドホックなトピックスもあろうと思いますが、我々にも心づもりがあるので、ここで次回、次々回のテーマを、大づかみにでもいいから。提案していただきたいと思

うのですが...

中央図書館長 今年度は今回を含めて4回を予定しています。次回は9月から10月ぐらいにかけて、それから、3回目が11月、それから4回目が1月と予定しています。

内容については、今年度は昨年度のように大きなテーマとか計画を用意しておりません。定例的なものとしては、次回は、まず昨年度の事業運営状況報告を、評価等を含めて、いたしたいと考えています。次ぎに利用者満足度調査についてお諮りします。調査項目の見直しなどがあればご意見をいただきたいと思っています。それから第3回目は、今年度上半期の事業の進捗状況の報告と、来年度の運営評価に向けての委員の選出をお願いすることになります。今年度最後の4回は、次年度取り組むべき課題であるとか改善点についてご意見等を伺えればというふうに考えています。

委員 中央館を中心とした全体の年間のフレームワークがあるはずですが、地域館の館長さんもそれぞれに固有の課題、あるいは地域館の間の共通する問題も持っていると思うのです。そこで一度、トップダウンのテーマだけでなく、ボトムアップのものも取り上げて土俵に乗せ、協議会委員皆様の意見を聞いていただくと我々も議論にもっと実感が持てるんですね。そういうことを考えただけならいいなと思っています。

中央図書館長 11月の協議会になるとおもいますが、上半期の進捗状況を報告するときに、極力ご意見に添うようにしたいと思います。

会長 次回は9月で、4ヶ月ほどの時間があきます。そこでお願いなのですが、次回会議前に今回の議事速記録を会長・副会長が整理・点検した協議会記録を図書館ホームページにPDFで掲げますので、それをお目通しの上ご出席下さい。

次のお願いは、新しくメンバーになった方々に特定するわけではありませんが、近くの地域図書館をよくご覧いただき、実態を目で確かめていただくこと、です。

最後は、図書館にお願いがあります。私はこの杉並の図書館を日本一の公共図書館と評価しています。その理由は、私が仕事で使う資料をオンライン蔵書目録で探すんですが、まず9割はヒットします。古い本が多いのは事実なので

すが、それほど充実しています。杉並区立図書館の蔵書は今230万冊あると言
うんですが、地域館を含めていま表に出ているのはその10%程度ではないでし
ょうか。残りの90%はどこにどのように蓄積・保管されているのでしょうか。
それらは閉架されている保存書庫にあるわけですが、私は長いこと委員をして
いるのにそれを見たことがないのです。そこで、9月の協議会の前に是非見せ
て頂きたい。会議の30分ぐらい前でしょうかね、もちろん参加自由でいいんで
すが、希望される方にもそうして頂けますか？

中央図書館次長 はい、それではそれを含めて、次回会議の日程を決定して
頂きたいと思います。図書館側は、9月28日土曜日の14時から会議を開催いた
したいと思っておりますがいかがでしょうか。

(了承)

中央図書館次長 ありがとうございます。じゃあ、先ほどの保存庫の視察を
入れた予定を後日ご案内いたします。

〔以上会長整理、副会長追加整理〕